
ジャックと手頃な石

かじゅぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジャックと手頃な石

【Nコード】

N3485S

【作者名】

かじゆぶ

【あらすじ】

ジャック・ザ・リッパーの恐怖

街は暗い雰囲気に包まれていた。切り裂き魔による連続殺人事件が人々を恐怖のどん底へとたたき落としていたのである。

当然ながら、ここスコットランドヤードの捜査本部もピリピリとした雰囲気に包まれていた。

「ナイフは危険か安全か、街では議論が沸騰して茶を沸かしそうな勢いですな」

部下のジョークを無言で睨みつけ、警部は愛用のメシヤムパイプを燻らせていた。この部下は有能な男ではあるが、場をわきまえぬ軽口にはいささか辟易させられる。

懲りた様子もなくその軽口が続く。

「いつその事、ナイフに安全装置でもつければいいんじゃないですかね？ はっはっは……」

「バカか貴様は」

低いが良く通る警部の声が部屋中に響き渡った。部下を睨むその視線もさらに鋭さを増す。

「いくらナイフを安全なものにしようとも、それを使うのはしょせん人間だ。ジャック・ザ・リッパーをどうにかせん限り殺人は止まらんよ」

「ごもつともなご意見、とばかりにその部下は肩をすくめ、話題を凶器から犯人へと転じた。打たれ強い男である。

「そのジャックですが、目撃証言によると何やら似合わない作業服を着ていたそうですね」

「うむ、取って付けたような姿だったらしい」

と、その時である。荒々しくドアが開き、警官が一名飛び込んできた。

血相を変え、思い出したように慌ただしく敬礼するその警官に、皆の耳目が集まったのは当然と言えよう。そしてその報告たるや。

「怪しい作業服姿の男を発見しました！」

「なに！ それは本当か？」

捜査本部に緊張が走る。

「よし、身柄確保だ。直ちにしよっ引いて来い！」

「はっ！」

その警官は敬礼で応じた。しかし、なかなか命令を実行に移そうとはしない。そればかりか敬礼姿勢のまま硬直し、困惑した表情を浮かべているではないか。

訝しげに警部が問う。

「どうした？」

「それが……」

「どうしたというのだ？」

「それが……」

「なんだというのだ！」

「い、石にかじりついて取れません！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3485s/>

ジャックと手頃な石

2011年10月5日07時42分発行